

静岡県の麻

た
こ



浜松 凧

➡ ● 浜松市

永禄年間(1560年)のころ、曳馬(昔の浜松)の城主である飯尾豊前守の長男義広公の誕生祝いに、佐橋甚五郎という入野の住人が、大凧に義広公の名を書き入れて揚げたのが最初であると伝えられる。

現在は、男の子の節句祝い凧として、町民それぞれ親の実家から紋所を入れた赤地のベタ凧を作り、隣家の若衆たちに祝いとして揚げてもらっている。



広瀬の凧

書 ● 豊岡村

県内で見かける奴(やつこ)姿をした凧は、ほとんどが磐田郡豊岡村上神増の一名「広瀬の凧」といわれている奴凧である。

型には、小型から大型奴凧にいたるまで、いく段階もの寸法があり、ことごとくにその絵柄も異なり、福助などの変わり絵もある。昔ここの地名である広瀬と日露戦争の軍神広瀬中佐を結びつけて、軍人姿の奴凧も作ったことがあるという。

横須賀凧

➡ ● 横須賀町

江戸幕閣の老中にまで登用された西尾家14代城主の西尾隠岐守忠尚公の加増祝いに、家臣たちが凧を揚げたのが横須賀凧の起こりと伝えられている。

現在、この地での凧揚げの習慣は、県中部以東の正月用と異なっており、男子の初節句の祝いに端午の節句を中心として鯉幟りがわりに「トンガリ凧」という赤地に松竹梅に鶴亀をあしらった4メートルの大凧を贈り合い、祝儀として近所の青年たちが凧揚げをしてくれるものだった。

凧の図柄は、主として祝儀用の目出たい図柄が多い。「巴凧」「トンガリ」「ベッカコウ」「頭っ切れ」「奴凧」「トンビ」「ベカ」「フワ」「蟬」「のし」など、バラエティーに富んだ形、仕掛けのある凧が多い。



静岡県の 凧



袋井近辺の復元凧

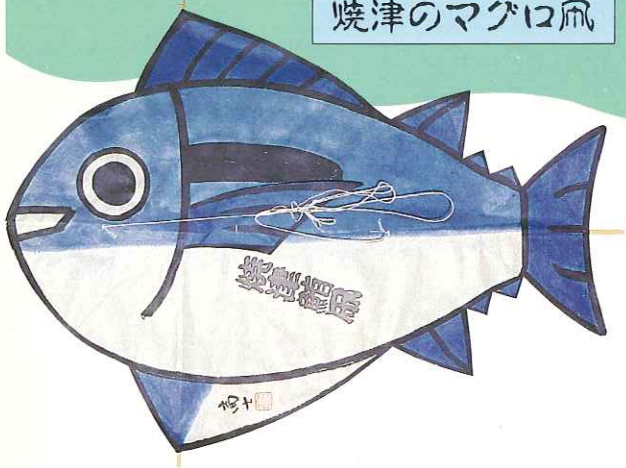


田代の扇凧
(静岡市井川)



森のブカ凧

焼津のマグロ凧



駿河 凧

●静岡市

今川義元の勝ち戦さを祝って、家臣たちが祝賀のために作り、揚げたのが駿河凧の始まりと伝えられる。江戸末期は特に盛んとなり、絵も錦絵ふうとなり、武者絵、歌舞伎役者絵などの美しい絵柄を競って作るようになった。駿河凧の型は、方形にやゝ下の部分を張り出させた特徴あるものである。



相良 凧

●相良町

相良凧は江戸時代中期より始められたと伝えられる。初の男子誕生を祝って、端午の節句に揚げられるようになったという。

絵柄は実に豊富で、合戦用凧は主として当所の商店各自の商標やら頭文字を描き、祝儀用の大凧や小供用の小凧には「オカメ」「鶴亀」「鯉金」「桃太郎」「金時」「龍の字凧」など数限りなくある。

思い切った構図、運筆の速さから生まれ出るさえた線描は実に見事である。



宗高の 凧

●大井川町

志太郡大井川町宗高で作られる凧である。宗高の凧は提灯屋を営んでいた池谷錠さんが、焼津の伊勢松という人と大井川町下小杉の伊之助という人の木版凧の版木をゆずり受けて作ったのが始まりだという。

その型は、大型の手描き凧は、下部の左右に軸を張り出した駿河凧風であり、小型の凧は、相良凧風である。木版画凧絵には、「義経」「浦島太郎」「加藤清正」「鶴亀」などがあ

●手作り凧

■製作者——三島市大場 平井伊三郎さん

平井伊三郎さんは、大正2年生まれの73才である。

大場駅近くですし屋を営む息子さんと共に住み、夏は花を育て、冬は凧作りにはげむ毎日を送っている。平井さんの凧作りは、子供時代からのことである。「昔は、だれだって、自分で作ったものだったよ」と言う。

子供が生まれ、小学生になるころ、すでに手作り凧をやる人は少なくなっていた。平井さんは、そのころでも自分の手で子供のために手作り凧をこしらえてやったという。戦後のことである。現在では手作り凧を珍しがって、近所の人たちでさえ平井さんの凧を欲しいと言うようになったと時代の変ったことを嘆いておられた。

凧作りは、手間のかかる仕事である。竹骨作り、凧絵描き、骨付け、糸目付け。1人で全部をやる。1枚の凧にかかりきりでも丸1日はかかると聞いた。

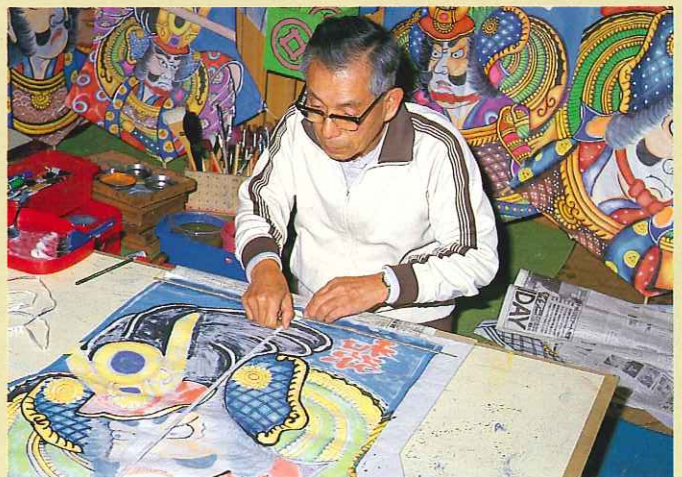
昔なつかしい武者絵に色付けしながら、平井さんは楽しそうに昔ばなしを語ってくれた。



●平井さんの手作り「駿河凧」



●色付け



●骨組み

●角罨(江戸罨)の作り方

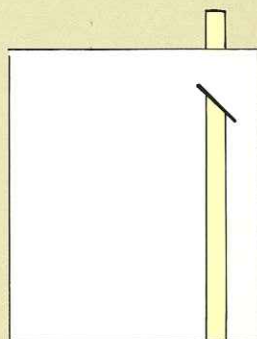
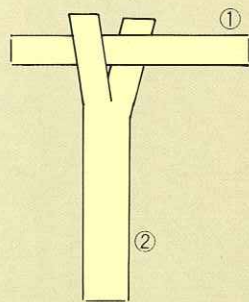
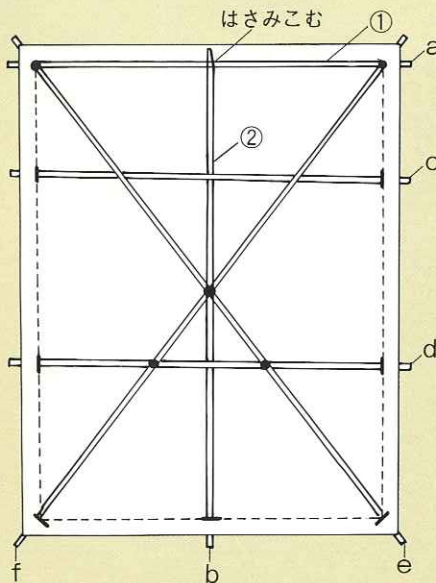
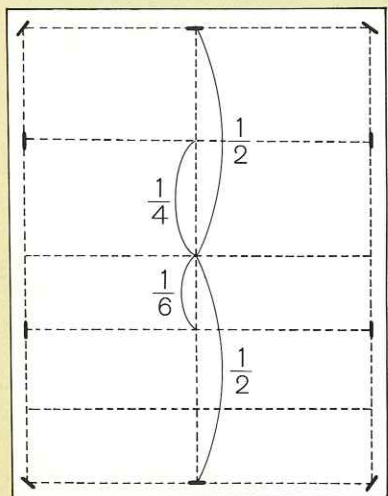
●材料

西の内紙 1枚
竹 骨 6本
(1.5mm×4mm)
罨 糸

角罨の 作り方

角罨は日本罨の標準型の罨である。

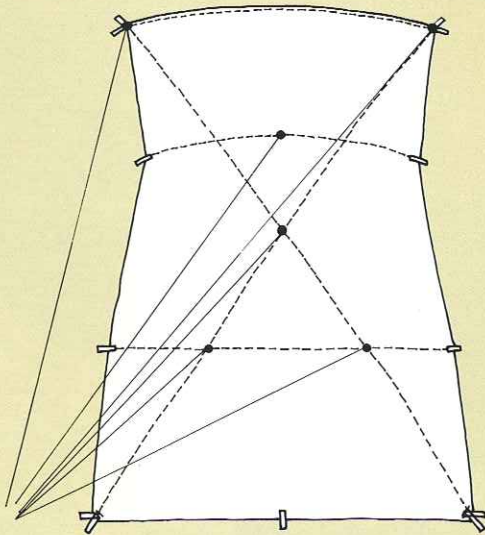
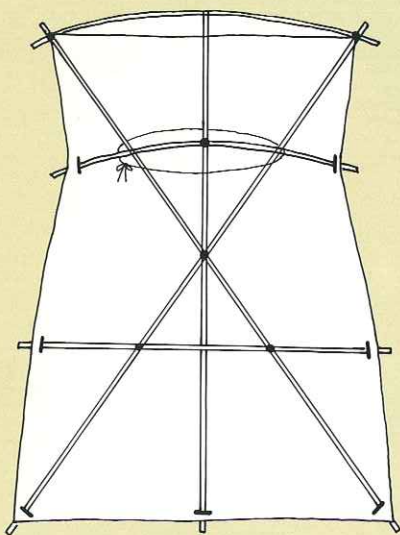
むかしは、この罨に錦絵の武者絵などを描いてあげたという。四角な罨のため左右のバランスがむずかしく、糸目のとり方が少し狂っただけでも落下してしまう。竹骨の組み方、紙のはり方、糸のつけ方など、ていねいに作ることが肝心である。



①まず罨絵を描く。空中で目立つような大きな顔絵がよい。乾いたらアイロンでよくのぼす。

②上のへりに1.5センチ、左右と下のへりに1センチをそれぞれうしろに折りがえし、内がわに骨を通す切りこみを入れる。

③竹にのりをつけ、切りこみをさし入れて、それぞれ骨のはしを1センチずつ出しabc順にはなる。なお②の骨は先を二つに割り、①の骨をはさむ。



④左、右、上、下の順番にへりを折りがえしのりづけをする。そして、上に大張り、2本目の骨に中張りをつける。大張りより中張りは絞るように強く張る。張りは、あげるときにだけ張る。そうしないと罨にくせがついてバランスがくずれる。

⑤糸目は6本つける。長さはおおよそ罨の2倍。中心は上から5分の2の位置。

■出品協力者

中村 健治氏(浜松市)
沼津市歴史民俗資料陳列館

●テーマ展 静岡県の罨

●昭和60年12月21日～
61年2月10日
●三島市郷土館
●411
三島市一番町19-3
楽寿園内
☎ 0559-71-8228